

～海岸に自生するウバメガシで良質な備長炭生産～

久能 忠和さん(愛南町(旧城辺町))

久能林業 1971年生まれ



☆経営概況☆

林業 : 白炭生産 年間 約10～15ト
 農業 : 水稻 約2ha (うち受託1ha)
 作業比率 : 林業9割、農業1割

☆ここがポイント☆

■高品質な伊豫備長炭の生産！

もともと家業は木材生産主体の林業でしたが、35年ほど前から地元で自生するウバメガシを活用して、高級な備長炭の生産を開始しました。なお、ウバメガシは愛南町の木として指定されています。

炭焼きは、原木調達から始まり、これを窯に入るサイズに切断します。一度窯に入れると日々監視しなければならず、たいへん難しい仕事です。火加減を間違えると苦労が水の泡になりますが、**金属音のする良質な備長炭に焼き上がった時の喜び**はなにものにも代えがたく、**本気で取り組もう！**と跡継ぎを決意しました。21歳から父について従事し、現在は、私が主となってやっていますが、受け継いだ技術にさらに磨きをかけるべく奮闘中で、家族労働(2人)を中心に、白炭を年間約10～15ト程度生産しています。

久能林業の製品は、ほとんどを関東に出荷しており、「**伊豫備長**」の銘柄で定着しています。備長炭は燃やしても灰をかぶりにくく、高温を長く保つことが特徴です。関東では、焼き肉・シャブシャブなど料理用の燃料に使用されています。

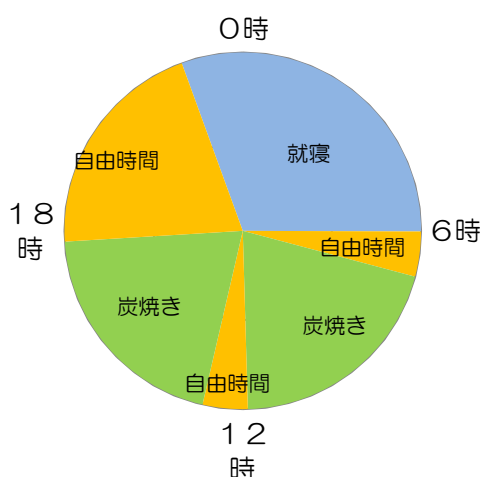


↑火入れ後の炭窯の前で



↑カット前の備長炭

【一日のライフスタイル】



【普段の生活について】

3人の子供のうち、長女は町外の学校へ行っており、さびしい限りですが、2人の息子が部活でサッカーに励んでおり、毎日の成長が楽しみです。

休日は、家族で大洲・松山方面にドライブして、映画を見たり、温泉に行ったりと、ちょっと前までは家族で動く時間が多くありましたが、コロナの影響や、一番には子供の成長もあって、今は中休みの時期です。

地区の仕事もしながら、忙しくも充実した毎日を送っていますが、若者の地元離れには危惧するばかり。そろそろ後継者育成に本腰を入れなければならないと思っています。

【一週間のライフスタイル】

| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|-------|-----|---|---|---|----|--------|
| 【繁忙期】 | 炭焼き | | | | 農業 | 休日 |
| 【普通期】 | 炭焼き | | | | | 休日は不定期 |



南宇和林業経営研究会の研修会にも積極的に参加しています。

☆これからの夢や目指すもの☆

■～世界に通用する備長炭を目指して～

夢は大きく、高品質の伊豫備長炭を安定的に生産して、**世界に通用する備長炭**に磨きをかけていくのが目標です。また、消費地でどのように使用されているか、お客様の声を聞いてみたいと考えています。

☆メッセージ☆

■子供が跡を継ぎたいと思うような家業に！

やっぱり、家は世代を繋いでいくことが大切なので、自分の代で後継者が跡を継げる体制を構築していきたいと思っています。コロナによる影響は、様々な経済的構造にも影響を与えており、効率的な原木の調達や積極的な施設整備など、いままでのやり方が難しくなった面もありますが、基本的な技術継承と創意工夫による変革をバランス良く取り入れながら、安定経営に努めていくつもりです。